

2026年4月24日

関係各位

野村ホールディングス株式会社  
 コード番号8604  
 東証プライム市場・名証プレミア市場

## 奥田グループCEO決算コメントおよびハイライト (2026年3月期 連結決算)

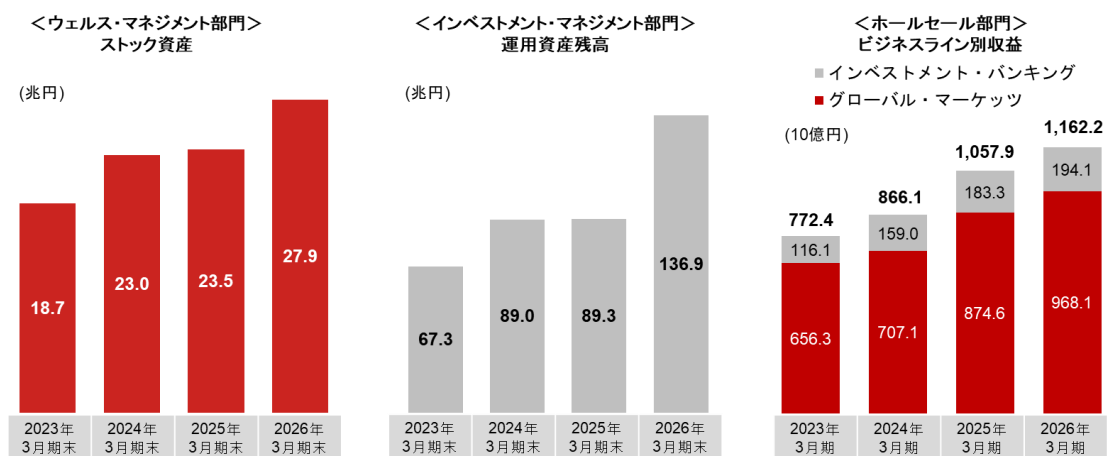
野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)の2026年3月期の通期(以下「当期」)および第4四半期(2026年1-3月、以下「当四半期」)連結決算概要をお知らせします。

グループCEOの奥田健太郎は以下のように述べています。

「当期は、これまで進めてきたビジネスモデル変革の成果が表れ、収益力と事業基盤の強化が一段と進みました。主要4部門合計の税前利益は5,069億円、ROEは10.1%となり、2030年に向けた経営ビジョン『Reaching for Sustainable Growth』の実現に向けて、着実に前進することができたと考えています。当期純利益は3,621億円と過去最高益を更新しました。

ウェルス・マネジメント部門では、包括的な資産管理サービスの進展によりストック資産の純増が継続し、ストック収入はこれまでの記録を上回りました。収益の伸長に加えて適切なコストコントロールも継続した結果、ストック収入費用カバー率は72%まで上昇し、税前利益は、2002年3月期の部門設立以来、過去最高となりました。ホールセール部門では、グローバル・マーケットおよびインベストメント・バンキングが高い収益水準を実現し、税前利益も2010年4月の部門設立以来、過去最高となりました。インベストメント・マネジメント部門では、市場要因や資金純流入に加え、買収した海外事業も寄与し、運用資産残高は136.9兆円まで拡大し、事業収益が大きく伸長しました。バンキング部門では、ローン残高や投資信託受託残高が拡大し、収益は前期を上回りました。

こうした成果を踏まえ、今後も新たな成長機会の獲得とビジネスの拡大に挑むとともに、組織基盤の強化を着実に進め、持続的な企業価値の向上に取り組んでまいります」



## 決算ハイライト

<当期>

### 全社

- 税前提利益は5,398億円(前期比14%増)、当期純利益は3,621億円(同6%増)でした。
- EPSは118.99円(前期比7%増)、ROEは10.1%(前期は10.0%)となりました。
- 2026年3月末日を基準日とする配当金(支払い開始日:2026年6月1日)は1株当たり24円とし、当期の配当額は51円となります。

	2026年3月期	前期比
収益合計 (金融費用控除後)	2兆1,677億円	+15%
税前提利益(損失)	5,398億円	+14%
当期純利益(損失)	3,621億円	+6%

### 主要4部門

- ウェルス・マネジメント部門は、ストック型ビジネスモデルが一段と加速しました。主要KPIが大幅に伸長し、部門設立以来過去最高益を計上しました。
- インベストメント・マネジメント部門は、運用資産残高が年間で5割超増加し約137兆円に拡大、安定収益基盤が大幅に拡充しました。
- ホールセール部門は、すべての地域で増収を達成しました。部門全体に加え、グローバル・マーケット、インベストメント・バンキングともに過去最高収益を更新しました。
- バンキング部門は、着実にビジネス基盤を拡大し、2027年3月期の預金スイープ実施に向けて順調に前進しました。

	収益合計(金融費用控除後)		税前提利益(損失)	
	当期	前期比	当期	前期比
ウェルス・マネジメント部門	4,879億円	+13%	2,040億円	+23%
インベストメント・マネジメント部門	2,585億円	+34%	883億円	-1%
ホールセール部門	1兆1,622億円	+10%	2,006億円	+21%
バンキング部門	539億円	+14%	140億円	-14%
合計	1兆9,626億円	+13%	5,069億円	+16%

<当四半期>

全社

- 全社の税前利益は1,077億円(前四半期比20%減)、当期純利益は739億円(同19%減)でした。EPSは24.34円(前四半期比19%減)、ROEは8.0%(前四半期は10.3%)となりました。
- 主要4部門合計は増収するも、それ以外で関連会社からの損益取込み額が減少しました。
- インベストメント・マネジメント部門で投資先への出資持分の減損を計上しました。

	当四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	5,772億円	+5%	+27%
税前利益(損失)	1,077億円	-20%	+10%
当期純利益(損失)	739億円	-19%	+3%

主要4部門

- ウェルス・マネジメント部門は、ストック資産純増額は高水準を継続し、ストック収入は前四半期に引き続き過去最高を更新しました。市場変動下において、顧客ニーズを捉え、フロー収入等も高水準を維持しました。
- インベストメント・マネジメント部門は、既存ビジネスの成長と買収事業の貢献により収益は過去最高となった一方で、買収事業に関連する費用や投資先の出資持分に係る減損を計上しました。
- ホールセール部門は、グローバル・マーケットは前四半期比で減収するもエクイティが過去最高収益を更新しました。インベストメント・バンキングは日本の貢献により堅調なモメンタムを維持しました。
- バンキング部門は、収益は堅調に推移したものの、今後のビジネス拡大に向けた先行投資により減益となりました。

	収益合計(金融費用控除後)			税前利益(損失)		
	当四半期	前四半期比	前年同期比	当四半期	前四半期比	前年同期比
ウェルス・ マネジメント部門	1,331億円	+0.5%	+33%	612億円	+5%	+70%
インベストメント・ マネジメント部門	862億円	+42%	+100%	181億円	+1%	+17%
ホールセール部門	3,081億円	-2%	+19%	432億円	-31%	+15%
バンキング部門	145億円	+6%	+27%	30億円	-27%	-0.1%
合計	5,420億円	+4%	+31%	1,256億円	-12%	+37%

【ご参考】

[決算関連情報\(決算短信・説明資料\)](#)

2026年4月24日付ニュースリリース「[剰余金の配当に関するお知らせ](#)」

以上

詳細につきましては、[当社ホームページ](#)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2026年4月24日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、[当社ホームページ](#)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2026年3月期通期および第4四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。